

頑張る企業を応援します！

中小企業応援団

愛知県信用保証協会 × 中部経済新聞



掲載日 2022年5月18日

株式会社三若純薬研究所

化学薬品メーカーの三若純薬研究所は、防錆剤や金属表面処理剤などを手掛ける。デジタル社会の進展で半導体市場が広がっており、同社の受注も拡大している。代表取締役の宮田壮一郎氏にこれまでの歩みや今後の事業方針を聞いた。

Company Data

社名：株式会社三若純薬研究所

代表者：宮田 壮一郎

住所：名古屋市中川区山王一丁目6番35号

電話：052-321-1036

URL：<https://www.mitsuwaka.co.jp>

紹介金融機関：愛知銀行



三という数字に団結と繁栄への思い込める

当社の源流は、私の曾祖父が1908年に創業した薬品卸売業「宮田専治商店」です。創業当時は工業薬品以外にも取扱っていましたが、お客様の要望を受け、工業薬品の取引が増えてきました。

1950年には祖父が製造部門を独立させて三若純薬研究所を設立し、山王(名古屋市中川区)に工場を建設しました。社名は、漢数字の三に「数が多い」という意味があることから、若さがあふれる澁刺とした会社にした、と名付けられたそうです。また、祖父には二人の子供がおり、三人で団結して盛り上げたいという意味も込められていました。

現在は、医薬品の原料や半導体材料の製造時に使われる化学薬品などを手掛けています。化学薬品は各産業の上流に位置する素材で、当社製品が最終的に国内シェアの高い製品に使われることもあります。当社のようなファインケミカル(高機能、高付加価値を付与する化学製品)の受託メーカーは中部地方では数少ないです。山王の本社に技術開発機能があり、生産拠点として衣浦工場(半田市)を有しています。

当社製品は、受託合成品と自社ブランド製品に大別されます。受託合成品は、お客様が開発した有機化合物を当社の工場で生産します。お客様からレシピをいただき、当社のキッチンでつくるイメージです。

もう一つの自社ブランド製品は、お客様のニーズから生まれたオリジナル製品です。お客様の工場の製造装置に付着した錆や塗料などスラッジの洗浄液や、電子部品製造工程時に使用するレジスト剥離剤などがあります。

長く働ける環境が人材育成の強みに

当社の最大の強みは人材です。40人規模の会社ですが、人事部があり、採用から教育、評価、定着まで一貫して対応できる組織づくりを進めています。特に人材育成には力を入れており、数多くの外部講習に参加する機会を提供しています。知識などのインプットをしっかりやらなければ、生産性を高めるアウトプットにつながらないと感じているからです。

また、当社は安心して働ける環境づくりにも注力しています。例えば、出産やお子様の学校卒業など、節目のイベントにお祝い金を支給する、当社独自の次世代育成資金制度があります。子育て世代に上述のような資金を支給しているほか、働きやすい職場であること、公正な評価をすることも意識しています。長く働ける環境を整備することで、生産ノウハウの流出を防いでいるのです。

フィルムから半導体、時代に合わせた市場に注力

当社の歩みを振り返ると、厳しい時もありました。売り上げのピークだった1999年は、ブラウン管やカメラのフィルム向けの化学薬品が好調でしたが、それぞれ時代の流れとともに製品が液晶テレビやデジタルカメラに置き換わり、従来の化学薬品が不要となることで当社の売り上げも大きく減少しました。

しかし反転攻勢に向け、市場が伸びている半導体市場に注目しました。半導体や電子材料向けは、品質管理の要求水準が高く、参入をためらう同業者も多かったのですが、当社はそこでしっかりと受注を伸ばしたことで業績が回復しました。

レベルの高い製品と、より良い顧客体験の両立へ

当社が目指す姿は、台湾の鴻海精密工業（ホンハイ）と星野リゾートです。ホンハイは電子機器の受託製造で高い世界シェアを誇っています。分野は違いますが、私たちは自社を化学薬品の受託製造企業と位置づけています。スマホや家電など電子製品の受託製造で世界最大手に成長したホンハイに少しでも近づけるよう努力を続けていきたいと考えています。また、当社は製品を作ることが業務ですが、業務の委託、という体験を提供しているという意味では、サービス業でもあると考えております。そのため、顧客体験を大事にしている星

野リゾートのように、当社に委託することで、お客様により良い体験を提供したいと考えております。

当社は来年、衣浦工場で新棟（第7工場）が稼働します。半導体向けに特化した高スペックな製品を生産する予定です。この新棟は、経済産業省から、サプライチェーン対策のための国内投資促進事業費補助金に採択されました。半導体業界には、国内で生産拠点を確保しなければ、中国に市場を奪われてしまうとの危機感があります。日本から雇用やノウハウの流出を防ぐため、当社としても国内のサプライチェーン確保に貢献していきたいと考えています。

私は思い悩むことが多い性格です。その中で大切にしているのが、「莫煩惱 慕直去」（バクボンノウ マクジキコ）という言葉です。この10年ぐらい居合を学んでいますが、その道場に飾ってあったのが、この言葉との出会いで、「自ら信じた道を突き進む」という意味だそうです。自分を信じてやりきるという意味でこの言葉に共感し、道に迷ったときや悩んだときにはいつもこの言葉に立ち戻っています。これからもこの言葉を支えに、目指すべき企業に向けてまい進していきます。